

お名前（ 武田 力 ）

滞在先（ 大船渡ゲストハウス ）

習った芸能（ 石橋鎧剣舞、仰山流笹崎鹿踊り、永浜鹿踊り ）

1) 三陸の芸能を習ってみていかがでしたか？

日本には多様な芸能が継がれていると改めて感じられました。どれもやはり「土地性」を由来としており、それだけ日本の地勢の豊かさを表しているとも思えます。また、「習う」「教える」とい



永浜鹿踊りを習う（中央）

う行為に対して、みなさん総じてとても親切でありがたかったです。ただ、前回のアンケートでも書かせていただきましたが、芸能のパッケージ化が気になりました。その土地を離れて芸能をおこなう方が増えるであろうこれからの継承に向けては留意しなければならない点だと思えます。

2) 今回三陸に滞在してみていかがでしたか？良かった点、困った点をお聞かせください。 （移動や食事、宿泊、練習場所など）

車がないと移動もなかなかたいへんなので、その点、みなさんに色々助けていただきました。スケジュールが当日までわからなかった（もしくは連絡が来なかった）ことは不安でしたし、予習もできないので困りました。



石橋鎧剣舞を習う（中央）

3) 今回の三陸でのAIRは、ご自身のアーティスト活動において、どのような影響、意味があると思われましたか？

今回は映像を撮らせていただくという初めての体験でしたので、芸能やそれを取り巻く環境、またアートとの関連性を客観的にリサーチすることができました。



永浜鹿踊りの装束を付ける（中央）

4) 今後も三陸の郷土芸能を習いたい、通いたいと思われたときに、AIR以外にどのような方法や制度があると良いと思われますか？

「なぜアートという文脈で芸能に触れるのか」、それを一歩深く現地の芸能団体の方たちと共有や

対話をおこなうフェーズに入っていると

思います。芸能を用いたアーティストたちの移住支援と思われる

芸能者の方も少なからずいらっしゃ

いました。まずそこを共有しないと、

「アーティストとして習う、通う」と

いうのは難しいのかもしれませんが。

言い換えれば、移住以外にどのような

互恵関係、交換関係を結べるかという

ことだと思えます。

三陸の伝統芸能を現地で学び、新たな作品を創作する三陸国際芸術祭Ⅱの「芸能短期留学」が、大船渡市や陸前高田市で行われている。全国から9人の若手アーティストが参加、鹿踊りや田植え踊りなどを保存会の人たちから習っている。震災から9年となる来年3月、宮古市で作品を発表する。

全国から選ばれた音楽家、トハウスなどに泊まりながらタンサーなど6組9人から、地元の芸能団体のリーダーらから稽古を受けている。10月中旬から11月4日、大船渡市から稽古を受けている。各々2週間程度、ゲス。

長野県松本市から参加した佐藤公哉さん(35)は、国内外で作曲・演奏を中心とした表現活動を展開するパフォーマンス・ミュージシャン。かつて新潟県十日町市に滞在した時、地元で歌い継がれる祝い歌に感動し、欧州やアフリカなどの音楽家と協演する中で、伝統文化を理解する大切さを

大船渡市に滞在し、地元の芸能保存会のメンバーから鹿踊りを習う佐藤公哉さん(中央)「いずれも大船渡市」

大船渡市周辺に伝わる石橋舞(ちういけんばい)の稽古を受けた武田力さん(左)と千葉県出身のダンスパフォーマンス日比野桃子さん

三陸の芸能 創作に生かす

芸術祭「短期留学」に全国からアーティスト9人

鹿踊りなど稽古 ■ 来春作品発表

朝日新聞 2019年11月1日号に掲載